

プラチナ四半期レポート

2025年第2四半期

2025年9月10日

はじめに

今回の『プラチナ四半期レポート』の内容は、2025年第2四半期の需給動向と2025年の最新予測についての解説となる。プラチナ投資家に役立つ情報、注目すべきトレンドとそれに対するWPICの見解、我々のプロダクトパートナー各社の最新情報も取り上げた。本稿6ページからのデータおよび分析はメタルズフォーカスがWPICのために独自に作成したものである。

2025年第2四半期の大きな注目点は、4月から6月の3ヶ月間でプラチナ価格が3.7%上がったことだ。第2四半期のプラチナの供給不足はわずか0.34トンだったにも関わらずプラチナ価格が上昇したのは興味深いことではあるが、過去2年半にわたってプラチナ不足が続いており、そこに米国の関税政策や中国の輸入拡大といった地政学的な要因が加わって場所によるマーケットの歪みが生じたため、価格が上昇することは予想できた。実際、需要の変動や米国の取引所在庫の放出によっても市場の逼迫感は緩和されず、米国内の需要と中国・欧州の投資家の間でプラチナを求める競争は続いた。それが第2四半期のプラチナのリースレートを押し上げ、ロンドンの先物市場は強いバックワーデーションが続いた。今年残りは、鉱山供給が年初の低迷から徐々に回復に向かいつつも、プラチナ市場では供給不足が続き、価格はまだ上がる余地がある。プラチナ投資妙味はまだ引き続き強いといえよう。

プラチナ市場は大幅な供給不足が続く

- 2025年の世界のプラチナ市場は26.4トンの供給不足になる予測。2024年の不足は30.1トンだった。5月の『プラチナ四半期レポート』にて発表した30.0トンという予測が今回減ったのは、宝飾品需要が大きく増え工業のプラチナ需要の減少分を上回ると見られるため。
- 2025年の供給見通しは改善していない。鉱山生産は、昨年のように仕掛かり在庫の処理による嵩上げができないため、前年比で6%減る予測。2025年のリサイクル供給はPGM価格の上昇を支えに前年比で6%増えるだろう。
- 2025年のプラチナ需要は前年比で4%減って、245.3トンの予測。宝飾品需要と中国のインゴットとコインの旺盛な投資需要が、弱含みの自動車需要と、今年は周期的に需要が減る年になるガラス産業の低迷を補うだろう。

2014年～2025年（予測）の年間のプラチナ需給バランス(koz)



出典：2014年から2018年はSFA（オックスフォード）、2019年から2025年予測はメタルズフォーカス

プラチナ投資 – 地政学リスクがきっかけではあるが、強いファンダメンタルズがあってこそ

2025年の第2四半期は、4月2日にトランプ大統領が自ら相互関税と称して新たな国別関税率を発表した「解放の日」で幕を開けた。関税率とその範囲は予想を遥かに上回るものだったが、貿易協定締結の間の執行猶予として90日間はその発動が延期されたため、当初のショックはすぐに和らいだ。その後公表された詳細な情報では、未加工プラチナ（スポンジ、粒状、インゴットなど）と法定通貨のプラチナコインの輸入は関税対象から外れた一方で、プラチナの小型バーは関税対象となることが明らかになった。

第2四半期の間の取引所在庫が9.9トン減ったのは、プラチナが関税対象外となったことやそれに関連して米国内の在庫が減る不安が背景だ。取引所在庫の流出で欧州市場の逼迫が改善するという見方もあったが、ロンドンの先物市場は動かずバックワーデーションが続いて、第2四半期の3ヶ月リースレートは平均で6%から16%という高い水準にとどまった。昨年の平均は1%から3%であったからいかにレートが高騰しているかがわかる。高いリースレートは一見すると欧州の貸出市場にメタルが集まる誘因のようだが、NYMEXの在庫から流出したメタルは一部中国に輸入されたことが確認されている。2025年の第2四半期の中国のプラチナ輸入は前年同期比で26%増加した。

中国の宝飾品と投資需要は2025年の第2四半期の中国のプラチナ需要成長の牽引役となった。ゴールドとの価格差がさらに広がり(今年4月が最大2450ドル差)、ゴールド宝飾品の製造が減って(2025年上半年は前年同期比でマイナス31%)、多くのゴールド宝飾品メーカーが相対的に安いプラチナへシフトした。一方で、現物資産を求める投資家は、ゴールド価格が今年第1四半期を通じて大きく上がったため、プラチナの方が下落リスクが少ないとの認識を持つようになった。第2四半期、プラチナ宝飾品の製造は一年前と比べて2倍以上に増え、プラチナインゴットとコイン(500グラム以下)の需要は6倍になった。

しかし、第2四半期のプラチナ価格の上昇でゴールドとの価格差は縮小しており、今年後半のプラチナ宝飾品と投資需要の伸びは鈍化するだろう。とはいえ米国が銅の輸入関税を発表したことで再びプラチナにも関税懸念が持ち上がっている。NYMEXのプラチナの在庫は第2四半期の減少分の一部が逆流しており、7月には6.3トン増えて16.5トンになった。

このように欧州、米国、中国の間の需要が非常に大きな幅で変動する中、プラチナの在庫は十分で流動性は確保できるという今までの認識は変わりつつある。理論的にはリースレートが上がればメタルの借り入れは減り現物の購入を促して価格上昇を支えるはずだが、現状はエンドユーザーが高いリースレートを受け入れているようで、投資家の行動は大きく変化していない。3ヶ月リースレートは7月に25%を超え、マーケットはプラチナ価格が約50%上昇したところでようやく反応して、7月のETF売却はネットで7.2トンだった。我々は以前より、ETFはプラチナの供給源となりうるが、それには価格が上がって売却を誘う必要があると指摘してきたが、プラチナ市場の供給不足は今後も続く見通しで、ETFの投資家は、将来のハイリターンを狙って売却よりも保有や買い増しを選ぶのではないだろうか。

地上在庫はこれまでの3年間で大幅にプラチナが不足していたため急速に減っている(78.7トン減、マイナス46%)。通常は価格が上がると、新たな供給を呼び込むか需要の抑制によってマーケットの構造的な供給不足が解消されるが、プラチナはこれまで供給も需要も価格にあまり反応してこなかったという歴史がある。

投資の一般的な時間軸で見るとプラチナ需要の価格弾力性は非常に低い。自動車と工業分野のプラチナ利用はより安価なパラジウムで代替できるが、その移行には時間がかかり、パラジウムを使う車の販売が軌道に乗るまで需要が本格的に変化するには数年かかる。宝飾品の需要は他の分野よりも価格に敏感に反応すると言えるが、ゴールド、特にホワイトゴールドと比べるとプラチナの割安感がまだ大きいので、たとえプラチナ価格が上がっても需要はそれほど減らないだろう。

プラチナ供給も全体としては価格弾力性が低い。鉱山供給を増やすのは容易ではなく、プラチナだけでなく、他のPGMやゴールド、副産物であるベースメタルの価格にも依存する。2017年から2023年にかけてパラジウムとロジウムの価格が上昇したおかげでPGMバスケット価格は8割も上昇したが、同じ時期、プラチナの鉱山生産は7%減っている。PGM価格が上がって新たな供給を促したとしても、新しい鉱山の生産が全面的に軌道に乗るまでに10年にかかるため、増産はなかなか実現できないのだ。それとは対照的にプラチナのリサイクルは鉱山生産よりも価格に敏感だ。今年はPGM価格の上昇を受けてリサイクル供給は増える兆しがある。

しかし、リサイクル供給の最大の供給源である廃触媒のリサイクルを左右するのは、プラチナではなくパラジウムの価格だ。パラジウムは自動車の需要に対する依存度が高く、緩やかではあるが世界的に車の電動化は確実に進んでおり、パラジウムの供給は過剰になる可能性が高い。

プラチナ価格の上昇にあるのは供給不足だが、直接のきっかけは間違いなく地政学リスクと米国の関税政策だ。プラチナ市場の不足が続き地上在庫の減少している中で安定供給は重要な鍵であり、今後なかなかプラチナが手に入らなくなる可能性もある。繰り返しになるが、プラチナの需要は堅調で、新たな鉱山供給、一時的にせよ地上在庫の放出を促すには価格上昇が長期間持続する必要がある。トランプ大統領がFRBの独立性を脅かすような動きを繰り返せば、ドルの代わりになる資産としてのゴールドの需要が強まり、それを受けてゴールド価格がさらに上がれば、プラチナ宝飾品やプラチナの投資需要にはプラスに影響するだろう。

プラチナの需要と供給 – 第2四半期の動きと2025年の展望

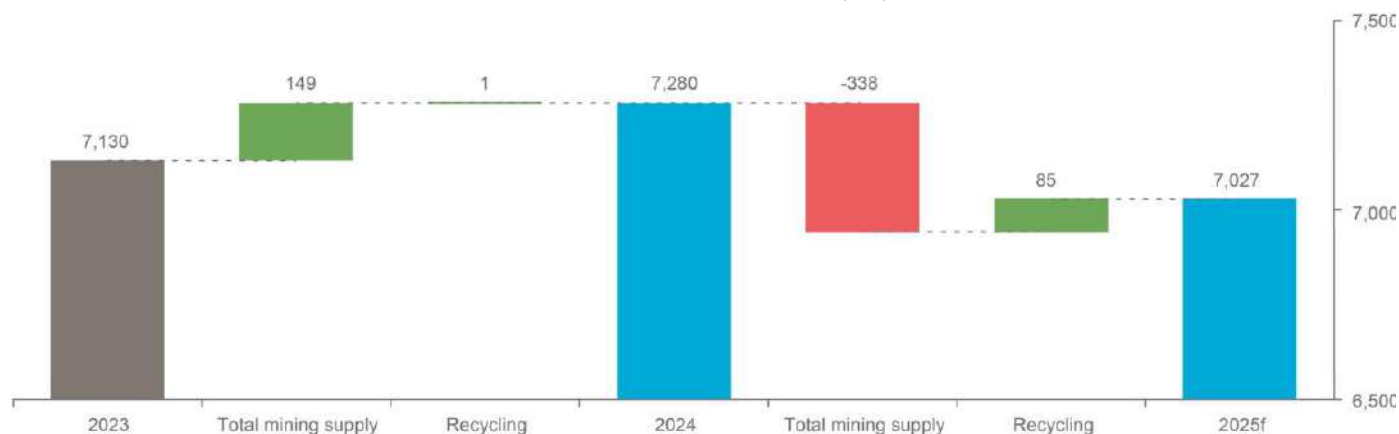
第2四半期のマーケットは均衡

2025年の第2四半期は需給ともに前年同期と比べて減少した。供給はマイナス4%で、そのうちリサイクル供給は12%増えた(+1.3トン)が、鉱山生産はマイナス8%(-3.8トン)だった。第1四半期に南アフリカで起こった洪水の影響は大きく、第2四半期の生産は前期比では48%回復したが、前年同期比では6%マイナスだった。ロシアの生産は新しい機材や車両が生産ラインに組み込まれたおかげで、前年同期比で14%増えた。リサイクル供給は自動車生産と宝飾品需要の回復を背景に増加した。一方、第2四半期のプラチナ需要は前年同期比でマイナス22%(-16.9トン)だった。プラチナ宝飾品の製造は増えたが、自動車と工業分野の需要減に相殺された。特に減ったのは投資需要で、前年同期は14.3トンも増加したが、今年は取引所在庫が9.9トン減り、投資需要は2.0トン減った。全体を合わせると2025年の第2四半期のプラチナ不足はわずか0.34トンにとどまった。

2025年の最新展望 – 3年連続の大幅なプラチナ不足

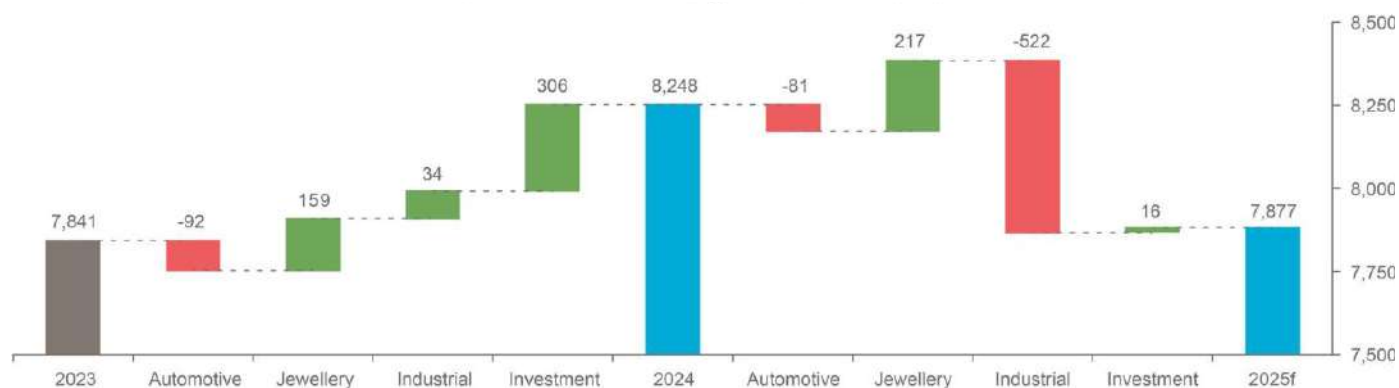
2025年のプラチナ供給は前年比マイナス3%となる見込み。鉱山生産は南アフリカで昨年のように仕掛かり在庫の大量処理で生産量を押し上げることができないため、マイナス6%となる予測。逆にリサイクル供給は前年比6%増える見込み。これまでの予測は3%増だったが、今回はプラチナ価格の上昇で廃触媒の処理と宝飾品のリサイクルが増えると考えられるため上方修正した。一方で、需要は前回の『プラチナ四半期レポート』を修正することになる。まず、宝飾品需要(3.5トン増)と投資需要(0.93トン増)が中国で非常に伸びているおかげで、需要全体が押し上げられるが、工業需要(マイナス6.5トン)に相殺され、全体は前年比で4%減って245.3トンになる予測。工業需要が最大の押し下げ要因で、今年はガラス産業の周期的な設備投資減速の年にあたり、前年比で74%の需要減(-16.0トン)の予測。そのほか、自動車需要は3%減るが、電動化の波と関税の影響がある中でなんとか持ちこたえるだろう。宝飾品需要は11%増、投資需要は2%増の予測。2025年全体のプラチナ不足は年間需要の11%に当たる26.4トン。

2023年から2025年(予測)の年間供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2023年から2025年(予測)の年間需要の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

WPIC 活動のハイライト

我々のプロダクトパートナーは数が増えているだけでなく世界各国に広がっており、我々は引き続きプラチナ投資を促進するための様々な戦略に役立つ有益な情報及び洞察を得ることができている。

2025年第2四半期の間の欧州と北米の我々のパートナー各社のプラチナ商品の売り上げは、投資家の強い関心とプラチナ価格の上昇のおかげで前期を上回り、リースレートの高騰や関税懸念で生産量と在庫が減った分を補う形となった。潜在的な投資需要は強いが、第2四半期が終わってからは生産量の減少でインゴットやコインが入手困難になり、残念ながら需要が満たされない状況が続いている。

中国の我々のパートナー各社のプラチナ商品販売高は、プラチナ価格の上昇に惹かれた投資家需要をバネに前年比で110%となるなど過去最高を記録した。深圳の宝飾品メーカーと卸売業者はこぞってゴールドからプラチナ商品に乗り換え販売が回復した。しかし、7月と8月にプラチナ価格が45%上がってからは価格変動をヘッジできないためにビジネスリスクが高まり、また一部の投機筋が後退したため、プラチナインゴットと宝飾品の販売は目立って減速した。今年後半に予定通り広州先物取引所でプラチナ先物取引が開始されれば、このような状況はある程度緩和されるだろう。

WPIC が主催した上海プラチナウィークは、300の組織から500人もの関係者が参加し、7月の第二週に盛況のうちに終わった。

日本の第2四半期は円建てプラチナ価格が高騰して投資家が利益確定売りに走ったが7月には落ち着いた。今回新たにオンラインでプラチナの投資用インゴットとコインを販売するアサヒメタルファインがプロダクトパートナーに加わった。我々のシンガポールのパートナー、Silver Bullion でもプラチナ価格の上昇で投資家の関心が集まり販売が伸びた。

CEO トレバー・レイモンド

目次			
はじめに	1	詳細データ表	19
要約データ表(koz)	6	要約データ表(トン)	24
第2四半期レビュー	7	用語集	25
2025年の展望	12	著作権と免責事項	29

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表 1 : 供給、需要、地上在庫のまとめ (トン表示は 2 4 ページの表 7 を参照)

	2021	2022	2023	2024	2025f	2024/2023 Growth %	2025f/2024 Growth %	Q1 2025	Q2 2025
Platinum Supply-demand Balance (koz)									
SUPPLY									
Refined Production	6,295	5,520	5,604	5,766	5,426	3%	-6%	1,106	1,453
South Africa	4,678	3,915	3,957	4,133	3,869	4%	-6%	713	1,054
Zimbabwe	485	480	507	512	491	1%	-4%	114	137
North America	273	263	275	254	189	-8%	-26%	52	57
Russia	652	663	674	677	686	0%	1%	180	155
Other	206	200	190	191	191	0%	0%	47	49
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	-93	+43	+11	-2	+0	N/A	N/A	-22	+0
Total Mining Supply	6,202	5,563	5,615	5,764	5,426	3%	-6%	1,084	1,453
Recycling	2,107	1,811	1,515	1,516	1,601	0%	6%	372	423
Autocatalyst	1,619	1,370	1,114	1,143	1,210	3%	6%	277	313
Jewellery	422	372	331	298	309	-10%	4%	75	90
Industrial	67	69	71	76	81	7%	7%	19	20
Total Supply	8,309	7,374	7,130	7,280	7,027	2%	-3%	1,456	1,876
DEMAND									
Automotive	2,466	2,778	3,206	3,114	3,033	-3%	-3%	769	769
Autocatalyst	2,466	2,778	3,206	3,114	3,033	-3%	-3%	769	769
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	1,953	1,880	1,849	2,008	2,226	9%	11%	533	668
Industrial	2,403	2,166	2,389	2,423	1,901	1%	-22%	365	513
Chemical	660	672	839	625	575	-26%	-8%	159	146
Petroleum	169	193	159	158	181	0%	14%	45	45
Electrical	135	106	89	93	95	5%	2%	22	24
Glass	713	436	491	692	177	41%	-74%	-78	82
Medical	267	278	292	308	320	6%	4%	78	80
Hydrogen Stationary and Other	17	13	22	41	49	87%	19%	10	10
Other	443	469	497	505	503	2%	0%	127	126
Investment	-3	-516	397	702	718	77%	2%	461	-64
Change in Bars, Coins	349	259	322	194	282	-40%	45%	70	109
China Bars ≥ 500g	27	90	134	162	186	20%	15%	35	47
Change in ETF Holdings	-241	-558	-74	296	100	N/A	-66%	-6	97
Change in Stocks Held by Exchanges	-139	-307	14	50	150	244%	200%	361	-317
Total Demand	6,818	6,308	7,841	8,248	7,877	5%	-4%	2,128	1,886
Balance	1,491	1,066	-712	-968	-850	N/A	N/A	-672	-11
Above Ground Stocks	4,442**	5,508	4,796	3,828	2,978	-20%	-22%		

出典: メタルズフォーカス (2021年から2025年予測)

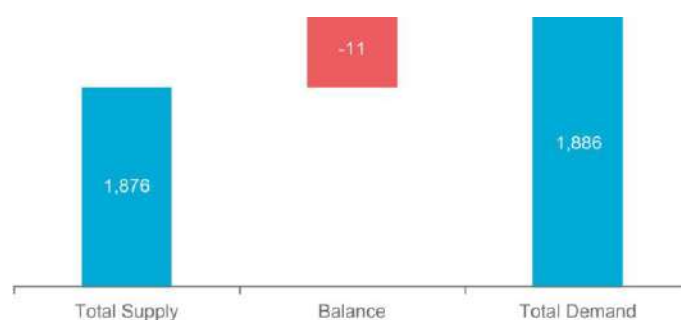
注:

1. 地上在庫: ***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第 2 四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはW P I C ウェブサイトを参照 (無料)。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、23ページの表3と24ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 23ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

2025年第2四半期のプラチナ市場レビュー

2025年第2四半期のプラチナ市場は需給がほぼ均衡した。関税懸念が収まるに従って CME 保管庫から現物が流出して需要に影響し、供給は前年同期比で4%減(-2.5トン)、主に鉱山生産が減った。鉱山会社が昨年のように仕掛かり在庫の処理で生産量を嵩上げできず、前期に起こった南アフリカの洪水やその他の障害が第2四半期にも影響が残ったためである。リサイクル供給は増えたが、鉱山生産の下落を補うには足りなかった。需要では宝飾品需要が増えて自動車の需要減を十分補い、工業需要は液晶ガラスの生産増強がなく前年同期比で24%減となった。

チャート1：2025年第2四半期の需要供給バランス (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

供給

世界の精錬プラチナ鉱山生産は、南アフリカとロシアの減産のため前年同期比で6%減って45.2トンだった。

第1四半期の洪水で生産設備が被害を受けた南アフリカでは、第2四半期はほぼ平常に戻り季節的に生産が少ない前期と比べると48%生産が回復した。しかし、前年同期と比べるとヴァルテラプラチナムの仕掛かり在庫が減ったため生産は6%少なく、32.8トンだった。

ヴァルテラでは Tumela Lower での操業は6月に回復したが、最も洪水被害が大きかった鉱区では第3四半期までフル稼働に戻らないと見られるなど、前期に起こった Amandelbult 鉱山での洪水の被害の影響が今も続いている。

イムブラッツでは第2四半期に終了した第3溶鉱炉の再構築に問題が残ったため精錬プラチナ生産量が鉱山採掘量を下回り、仕掛かり加工在庫が6.2トンにまで膨れた。対照的にノーザムでは増産となり、南アフリカのその他の地域の減産を補った。

ロシアの生産は、前年同期比で14%減って4.8トンだった。西側諸国のメーカーが機材提供などを停止したため、ロシアの最大鉱山会社であるノリリスクニッケルでは新たな調達先に変更せざるを得ず、そのため鉱石量が減って仕掛かり在庫が増えた。

ジンバブエの生産は前年同期比で9%増え、ジムブラッツで溶鉱炉の拡張が終わってその工事の間に蓄積した仕掛かり在庫の処理を行ったことで、四半期ベースでは過去最高の4.3トンだった。

北米の生産は前年同期比で4%減った。シバニエ・スティルウォーターでは溶鉱炉の再構築に伴って生産が減ったが、昨年のメンテナンスから回復したヴァーレのカナダでの生産はその一部しかカバーできなかった。

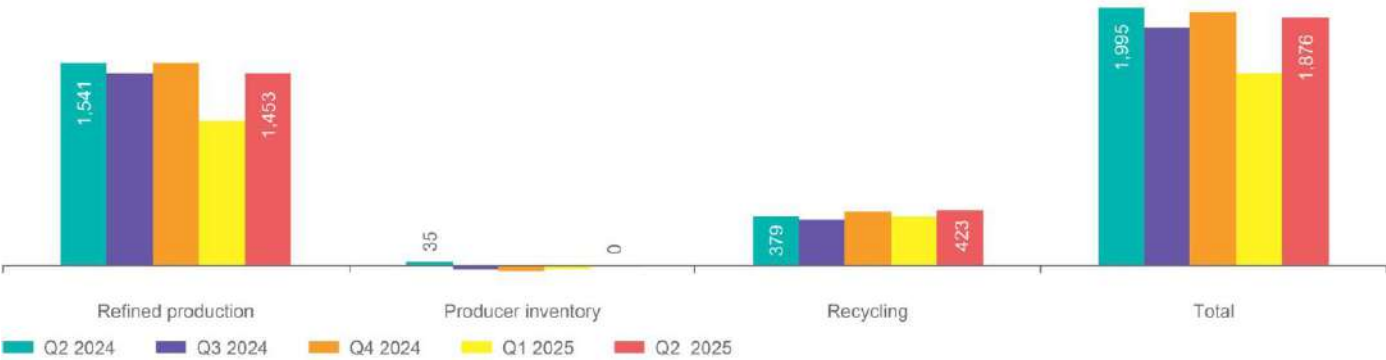
リサイクル

世界のリサイクル供給は、すべてのリサイクル分野が伸びて前年同期比で 12% 増え、13.2 トンとなった。廃触媒のリサイクルでは前期同様に中国で政府の支援による廃車が進み、その他の地域でもメタル価格の上昇でリサイクルが促された。しかし、PGM 価格上昇の影響は5月末に顕在化したばかりで、多くのリサイクル業者はまだそれほどの回復を報告しておらず、解体・回収業者間では閉鎖や業務縮小、再編などが起きている。

日本以外の全ての地域では、リサイクルに出されるプラチナ宝飾品が増えているが、中でも顕著なのは中国で、プラチナ宝飾品のスクラップは、SGE のプラチナ価格高騰を受けて前年同期比で45% 増え、6月の最高値で売れ残りの在庫をスクラップ処理に出した大手小売店もある。

しかし、対照的に日本では、第1四半期前期に見られたようにゴールド宝飾品を優先してプラチナ宝飾品の在庫を処理する動きは第2四半期にはなかったため、新たなプラチナスクラップ供給が減った。その他の地域の宝飾品リサイクルは増減なしに僅かな増加に終わった。電子材のリサイクルは、特にハードディスクのリサイクル回収率が増えたことで前年同期比13% 増えて 0.59 トン。

チャート 2：プラチナ供給 (koz)

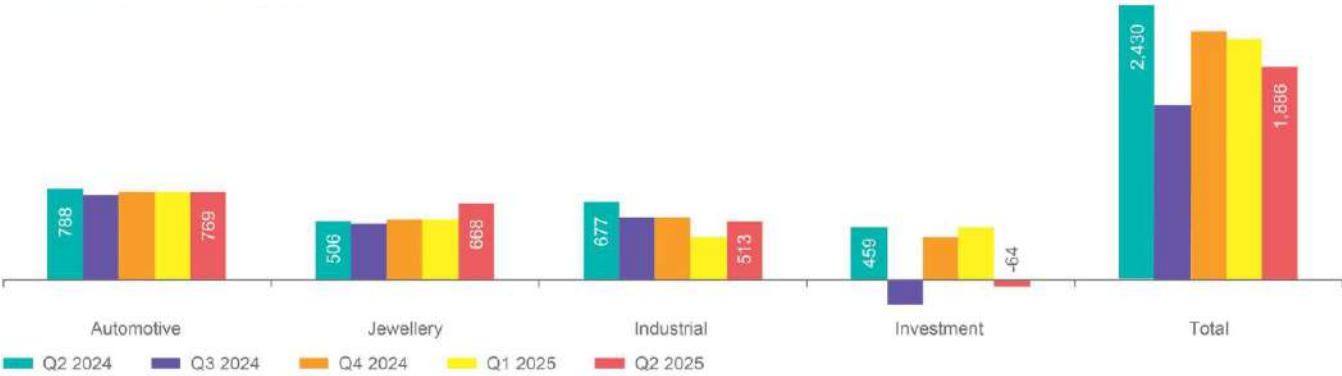


出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

需要

2025年第2四半期の世界のプラチナ需要は、関税懸念で膨れた取引所在庫が市場に放出されたため投資分野の変動が大きく、全体の需要は前年同期比で22% 減の58.7 トンだった。中国でガラスと化学薬品工場の生産拡張がなかったのが響いたが、宝飾品需要は32% も伸びた。自動車需要は車両や部品に高い関税率が課されたにもかかわらず2% の減少で持ちこたえた。

チャート 3：プラチナ需要 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

2025年第2四半期の世界の普通乗用車生産は前年同期比で2%増えて2270万台だった。中国の生産が増えたが、中国ではバッテリー電気自動車(BEV)も16%伸びた。北米と欧州では関税と規制の強化、消費者の購買力低下で生産が鈍化した。関税で見通しが悪化した自動車メーカーは生産予測を下方修正し工場の再編も行われている。大型輸送車の生産は前年同期比で変わらず330万台で、触媒装置搭載車両は4%減った。以上から第2四半期の世界の自動車のプラチナ需要は2%(-0.59トン)減って23.9トンだった。

北米では関税前の駆け込み販売が一巡した後の生産は落ち着いたが、排ガス規制の緩和が取り沙汰されたにもかかわらず、2025年の企業別平均燃費基準値は変わっていないために、自動車メーカーは急遽対応を強いられおりEVモデルは減っていない。おかげでハイブリッド車が順調に伸びており、エンジン車の減産がPGM需要に与える影響を和らげている。大型輸送車の生産は昨年同期の生産台数が多く貨物輸送の低迷や過剰在庫も加わって2025年第2四半期は27%減った。想定されていたEPA27関連の駆け込み需要は現実とはならず、プラチナ需要は8%(-0.34トン)減って3.7トンになった。

欧州ではコスト高と米国の関税が輸出に影響して普通乗用車生産が2%減った。規制対応の負担と価格に対応するために自動車メーカーはハイブリッド車を優先しBEVの発表を遅らせている。ハイブリッド車の生産は17%増え、米国同様にエンジン車の減産の打撃を和らげている。パワートレインの変化と生産台数の減少で自動車のプラチナ需要は6%(-0.49トン)減って7.7トンだった。

中国では堅調な自動車生産がプラチナ需要の成長を支えた。新エネルギー車(NEV)優遇制度のもと、メーカーにはBEV、プラグインハイブリッド車(PHEV)と燃料電池自動車(FCEV)の販売ノルマが課され、目標に達しなければクレジットを買わなければならない。さらに厳しくなった排ガス規制も電気自動車の生産を支えた。大型輸送車の生産は、補助金と7月に導入された新型モデルのためのステージ4燃料基準を追い風に17%増えた。ドライブトレイン別の大型輸送車販売ではBEVとハイブリッド車が共に伸びたが、エンジン車も前年同期比で7%伸び、おかげで浄化触媒装置のプラチナ需要は前年同期比で6%増えた。

日本とその他の地域の成績は玉石混交だった。日本では排ガス規制基準値を満たしながらも手頃な価格のハイブリッド車が強みで生産を支えた。途上国市場では通貨安やコスト高が販売に影響したが、輸出が強い新興国では世界貿易の変化に恩恵を受けた国もあった。例えばメキシコの自動車生産は関税の影響で8%減産となったが、アルゼンチンとブラジルではそれぞれ21%と11%増えた。ハイブリッド車の生産は37%増えてエンジン車生産の減産を補い、触媒装置搭載の車の生産は横ばい。今年はその他の地域に含まれる数カ国で新たな排ガス規制が導入されプラチナ需要を支えた。

宝飾品需要

2025年第2四半期の世界のプラチナ宝飾品の需要は前年同期比で32%増えて20.8トンとなり、2017年第4四半期以降の四半期ベースで最大、上半期としては2015年以来最大となった。

欧州の第2四半期のプラチナ宝飾品製造は推定7%の増加。プラチナとゴールドの価格差は前年同期と比べると平均63%に拡大し、宝飾品市場が全体的に低迷する中でもプラチナは相対的に優位な立場にあり、中にはプラチナがゴールドのシェアを奪ったマーケットもある。プライダル市場ではプラチナが強く、プラチナを多く使う高級ブランドは価格に影響されにくいことから、販売高はプラチナ価格の上昇に対してもある程度低い価格弾力性が見られ、プラチナ宝飾品はゴールドを上回る強いパフォーマンスを実現した。ゴールドは重量ベースで大幅に減少した。この傾向は英国のプラチナの品位証明刻印の受付数量にも裏付けられており、4月から5月にかけては前年同期比で11%増、スイスでは4月から6月で28%増えた。

北米の第2四半期の宝飾品製造は概ね前年並みだったが、輸入が減って在庫補充も低迷していたことから宝飾品の販売は推定2%の増加。欧州同様に、プラチナとゴールド価格の差が拡大したことがプラチナ宝飾品に有利に働き、北米消費者の宝飾品消費額は伸び続けている。プラチナ宝飾品の販売数量もゴールドを上回り、単位あたりのメタル使用量が減っている宝飾品市場の傾向に逆行する形となった。さらに、ダイヤモンド価格の下落に伴って宝石を留めるために使われるプラチナの需要も伸び、前年同期比で9%上がったプラチナ価格の影響を補って余りある結果となった。

日本でもプラチナとゴールドの価格差が第2四半期のプラチナ宝飾品の需要を押し上げた。製造量は10%増えて約3.3トン、2019年第3四半期後で初めて100koz(3.1トン)を超えた。関係者の情報では国内販売も輸出も共に好調で、6月の香港での宝飾品見本市の手応えも十分だった。東南アジアのバイヤーによるとホワイトゴールドの代わりとなるプラチナの人気は高いが、その絶対量はまだそれほど多くはない。

第2四半期の中国のプラチナ宝飾品製造は前年同期比の2倍以上、今年上半期では前年同期の82%増となった。ゴールド価格の高騰で資金調達コストが上がって小売販売が低迷している中でプラチナの安さが目立ち、深圳のショールームの多くがプラチナ商品の在庫を積極的に増やし始めた。一店舗で200キロから300キロの在庫を抱えるプラチナ宝飾品のショールームが第2四半期の間に10箇所以上も新設され、カウンターだけで商売をする小さなショールームの多くも主力商品をゴールドからプラチナへ移した。しかし、4月と5月の3週目までに一番目立ったこの変化は、宝飾品製造の勢いに小売の消費が追いつかないのではという見方とプラチナ価格上昇後の価格調整への懸念から、6月には大きく萎んだ。

インドのプラチナ宝飾品需要は堅調が続いており、年初の出足は鈍かったものの、前年同期比で10%増えて1.6トンになった。しかし、輸出の方は米国の関税懸念が製造に重圧となって前年同期比でマイナス12%となった。ゴールド価格の高騰でゴールド宝飾品が苦戦する中で、大手小売店のチェーン拡大やプラチナ宝飾品の高いマージンなどのおかげでプラチナ商品の在庫を増やして積極的に販促を行う小売店が増えた。インドではプラチナとイエローゴールドあるいはローズゴールドを組み合わせた二色づかいの宝飾品の人気が高く、ゴールド宝飾品の販売エリアの目立つ場所に陳列されることが多い。

工業需要

2025年第2四半期の工業のプラチナ需要は、ガラス産業の生産拡大が目覚ましかった昨年同期との比較のため24%減って16.0トンだった。しかし前期比では41%増え、回復基調にある。

化学

化学産業のプラチナ需要は前年同期比で14%減って4.5トンだった。パラキシレン(PX)と脱水素プロパン(PDH)工場の生産拡大がなかったため、石油化学分野のプラチナ需要はほとんどが触媒補充の需要となったが、5月にはFuzhou Wanjing Petrochemicalが第2四半期では世界で唯一の生産拡大となる90万トン規模のPDH新工場を稼働させた。対照的なのはシリコン産業で、米国の関税政策で先行き不透明であるにもかかわらず、ヘルスケア、消費財や家電製品の生産が増えたため、シリコン生産大手メーカーは生産安定または増産でプラチナ需要が伸びた。硝酸生産に使われるプラチナの需要は安定しており前期から変化がなかった。

石油

石油産業のプラチナ需要は前期と変わりがなかったが、前年同期比では14%増加した。これはガスツーリキッド(GTL)工場での触媒交換が増えたこととバイオ燃料への投資が増えたため。中東では緊張が高まっているが、世界の石油供給にはほとんど影響していない。実際OPEC+生産国は自主的生産規制を解き始め、非OPEC諸国では石油生産が増えている。地域別の石油生産は前期同様に一様ではないが、その他の地域が石油精製能力の増強を進め、GTLによる触媒の需要も伸びておりプラチナ需要の伸びに最も貢献している。一方、欧州では今年中に閉鎖が決定している石油精製設備が数箇所あるなど石油需要の減少が最も大きく、プラチナ需要もそれに伴って減っている。

医療

2025年第2四半期の医療のプラチナ需要は、北米のがん治療と途上国の医療機器の需要が増えたことを背景に前年同期比で4%(+93.3キロ)増えて2.5トンとなった。

ガラス

2025年第2四半期のガラス産業のプラチナ需要は、中国で液晶ガラス生産の大規模な拡大があった前年同期との比較で64%減り2.6トンだった。第2四半期は周期的にも新たな液晶ガラス工場建設が全くなく、2022年～2024年の平均、4.2トンにも届かなかった。グラスファイバー需要は増加傾向にあるが、生産拡大のために数年に渡った投資額から見るとそれほどの増加とはいえない。

電子材

2025年第2四半期の電子材のプラチナ需要は、データセンター建設が続き前年同期比で3%増えた(+31.1キロ)。背景にあるのはAIと機械学習(ML)の発展、クラウドやエッジコンピューティング技術の普及だ。これらがデータストレージの需要を高め、ハードディスクドライブ(HDD)の出荷を支えた。メタルをより多く使う大容量HDDの需要増加で関連素材の需要も増えており、高性能半導体用のプラチナ合金の需要も安定して伸びている。貿易戦争の影響が6月に多少あったが、ニアラインストレージの需要がストレージ業界全体の需要を支えた。

水素: 定置型燃料電池とその他

2025年第2四半期の水素関連のプラチナ需要は前年同期比で20%増えた。政治的な動きを背景に、資金が環境関連の産業から安全保障と防衛に移っているが、大手メーカーによると水素プロジェクトの注文は減っておらずプロジェクトも進行中とのことだ。北米では水素生産のための優遇税措置が2028年1月まで延期された。

その他

2025年第2四半期の世界のその他の産業のプラチナ需要は前年同期比で2%(-93.3キロ)減って3.9トンだった。自動車分野ではエンジン車生産が前年同期比でわずかに減り、アフターマーケット産業が慎重な動きになったためにスパークプラグやセンサーの需要が減った。

投資需要

第2四半期の世界のプラチナインゴットとコインの投資需要は前年同期比で660%増え(+3.0トン)、2023年第2四半期以降で最高の3.4トンとなった。この増加のほとんどが過去最高となった中国の需要で、中国を除いた世界の需要はネットでマイナス0.15トン。

中国のインゴットとコインの需要は3.5トン、前年同期の6.6倍だ。プラチナとゴールドの価格差が4月22日に過去最大の2449ドル/オンス(589元/グラム)に開き、その後も価格差は縮まらずに5月の平均は2265ドル/オンス(522元/グラム)を保ったため、プラチナは非常に割安であるとの認識が投資家に広がった。6月半ばにはプラチナ価格が上昇し心理的に大きなインパクトのある1300ドル/オンス(300元/グラム)を超えると投資筋の需要が急増した。

北米の第2四半期の需要は、前年同期比で43%減って(-0.37トン)、わずか0.49トンになった。この背景は関税とリースレートの急上昇で、小型インゴットの輸入は輸入関税が10%になったために激減し、リースレートの急騰で仕掛かり在庫の調達コストがインゴットやコインの製造コストと見合わずに市場に商品が出回らなくなった。そこにプラチナ価格が上昇し、投資家の間では現物を求める動きが強まった。

欧州のインゴットとコインの需要は前年同期比で21%(-62.2キロ)減って0.18トンだった。第2四半期初めは貴金属の投資需要は回復したが、リースレートの高騰とともにプラチナの投資需要は時間と共に減っていった。

日本市場は、プラチナに対する投資家の関心が薄れたのと利益確定売りで売り越しとなった。6月にプラチナ価格が上がった時期にはグロスの売りも買いも大きく増え、価格が動けば日本の投資家はプラチナに注目することがわかる。

第2四半期のプラチナETF残高は3.0トン増えて105.7トンになった。第2四半期初めは投資家の関心が高く、6月半ばの残高は109.1トンで2024年6月以来のピークに達した。その後欧州ファンドを先頭に1250ドル/オンスで利益確定売りが始まり、市場には現物が放出されて、一時は40%で過去最高となっていたリースレートの安定に貢献した。

チャート4：プラチナ投資 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

第2四半期の取引所在庫は 9.9 トン減って 10.0 トンになった。これは 2021 年にコロナ禍で市場の歪みが生じて以来のピークであった今年の第1四半期の 19.8 トンのほぼ半分に当たる。第1四半期の在庫増加は関税懸念の中で米国内に現物を置いておくディーラーの需要が背景にあったが、インゴットやスポンジなどの未加工プラチナが関税対象から外されて先物市場がタイトになり始めると、在庫が大量に流出した。7 月には米国が銅に関税を課し、南アフリカからの輸入関税は 30% であることが確定されたことで、米国内に保管するメタルの需要が再び強まって取引所在庫が増え始めた。スポットと先物のスワップレート(EFP) は 80 ドル/オンスに跳ね上がった。

2025 年の展望

2025 年のプラチナ市場は 3 年連続で供給不足、26.4 トンが不足するだろう。地上在庫は 2022 年末から今年年末までで 78.7 トン減ることになる。南アフリカの問題や低い PGM バスケット価格による業界の再編などが鉱山生産を圧迫し供給は 3% 減(-7.9 トン)の 218.5 トンの予測。

需要は主に工業需要が減るため、全体で 11.5 トン減って 245.3 トンになる予測。宝飾品需要が堅調で多少補えるが、自動車には関税が、工業には生産拡大の欠如が逆風となって需要を抑制するだろう。

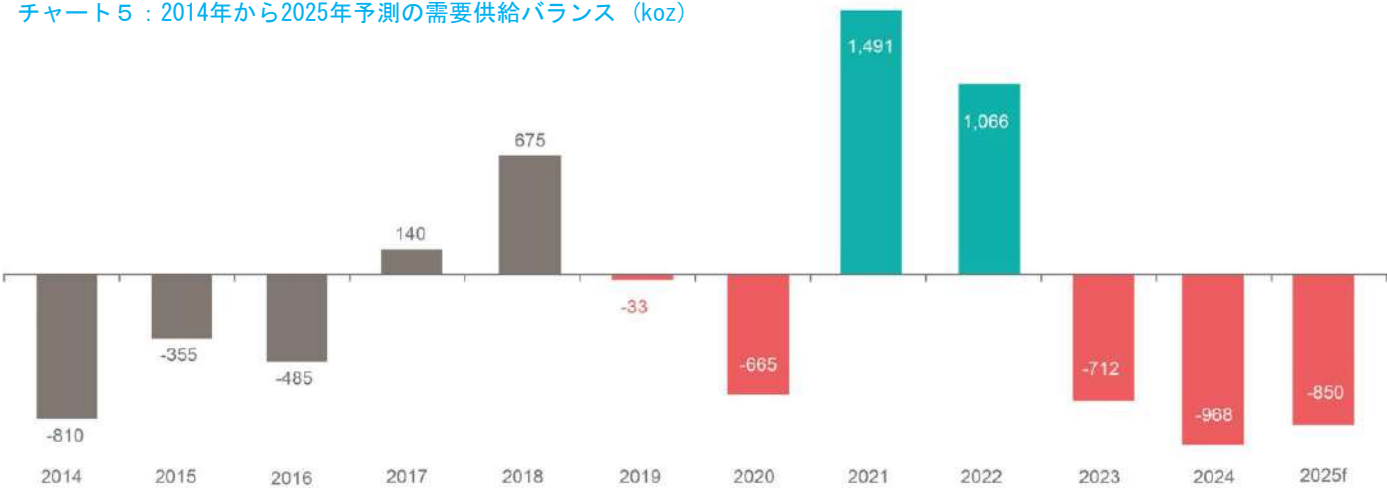
供給

上半期の世界の精錬プラチナ供給は予想を下回って前年比で 8% 減ったが、今年全体の鉱山生産は前回のプラチナ四半期レポートの予測と同じ 168.7 トン。下半期の鉱山生産は増産とまではいかないまでも徐々に回復し、減産は前年比 4% まで縮小するだろう。

上半期に例年以上の雨量があった南アフリカでは特に Amandelbult 鉱山の被害が大きく減産につながった。第1四半期に行われた 3 年に一度の在庫確認の後ヴァルテラでは加工能力を増やし、イムプラッツの南アフリカの溶鉱炉メンテナンスも終了、またジムプラッツの溶鉱炉も拡張されるなど、下半期の生産は順調に回復すると見られる。しかし、2024 年の生産を嵩上げたヴァルテラの仕掛かり在庫は現在すでになくなり、精錬プラチナ生産は既に構造的に減少傾向にある鉱山採掘量とそれほど変わらない水準になるだろう。

プラチナ価格の急騰だけでなく PGM 全般で価格が上がっているおかげで、南アフリカのドル建てバスケット価格は年初から 44% 上がっている。南アフリカのプラチナ鉱山の収益は大きく改善し、前回の『プラチナ四半期レポート』で予測していた 2025 年の収益の低下リスクは緩和された。

チャート5：2014年から2025年予測の需要供給バランス（koz）



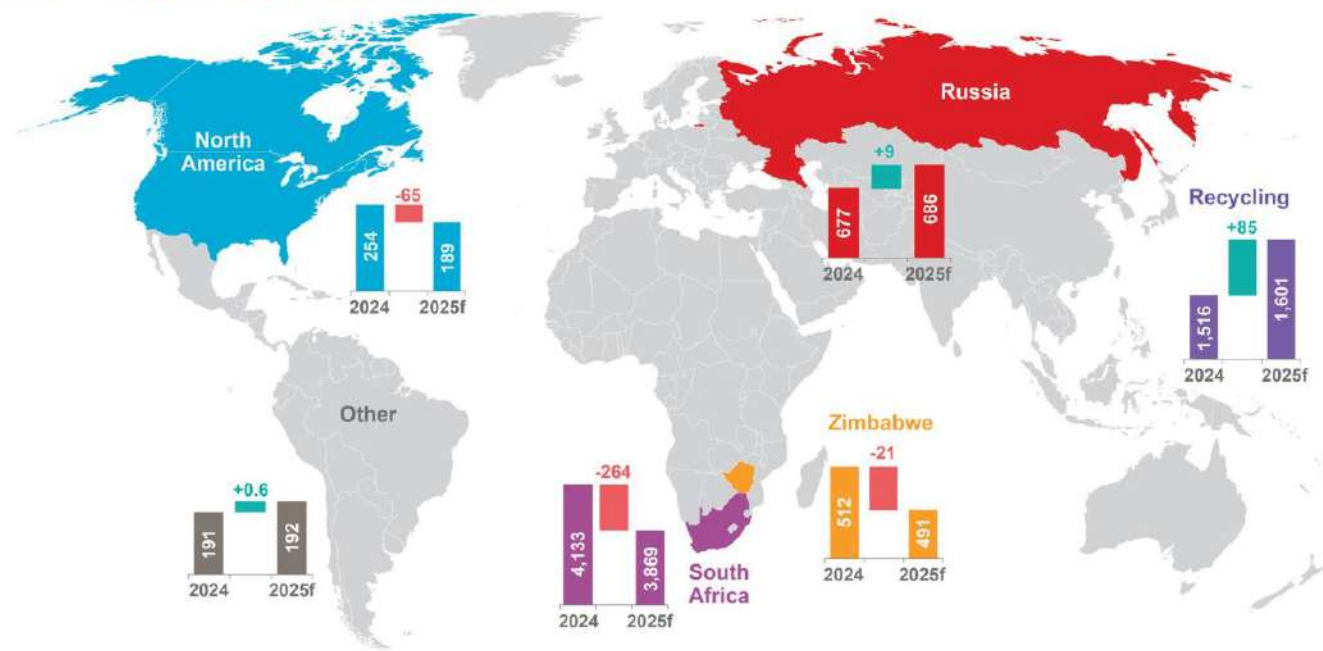
出典：2014年～2018年はSFA(オックスフォード)、2019年～2025年予測はメタルズフォーカス

しかし、現在のバスケット価格は、鉱山会社が長期的生産計画で想定している価格水準と一致したに過ぎなく、したがって鉱山会社の戦略にはすでにプラチナ供給の構造的な減少が織り込み済みで、この流れは今後変わることはないだろう。

2025年の南アフリカの鉱山生産は前年比で6%減って120.3トンになる予測で、ストで中断した2014年と、ACP 転炉の閉鎖で中断した2020年を除けば、過去25年間で最も少ない生産量となる。

ジンバブエのプラチナ生産は前年比マイナス4%で15.3トンの予測。昨年は仕掛かり在庫があったために生産量が過去最高となったが、今年はそのような在庫はなく、また電力も不足しており減産は否めない。

チャート6：2024年と2025年の供給の変化（koz）



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

北米の生産は前年比で26%減って5.9トンになり、過去30年間で最も少なくなる予測。シバニエ・スティルウォーターが米国資産を再編成し、カナダのニッケル鉱山の生産は収益減に直面している。ロシアの鉱山生産はほぼ平年並みの予測で1%増の21.3トンになるだろう。

リサイクル

2025年のプラチナのリサイクル供給は回復基調で、前年比で6%増えて(+2.6トン)49.8トンになるだろう。廃触媒のリサイクルはPGM価格が低かった時期に解体業者がためていた分が処理に回り、関税で持ち上がった不確実な事柄も解決されたことで国際的な流通量も増え、また中国政府の廃車奨励策もリサイクルに貢献するだろう。しかし、リサイクル供給全体はまだコロナ禍以前の2021年の水準よりも25%低いままとなるだろう。

宝飾品のリサイクルも今年はプラチナ価格の上昇のおかげで増えるだろう。中国では第2四半期のリサイクル量が予想を上回り上半期の予測を前年比で1割押し上げた。我々は、メタルズフォーカスの今年下半期の価格予想を受けて、2025年全体の宝飾品リサイクル供給の予測を前年比で8%に増加と上方修正した。

需要

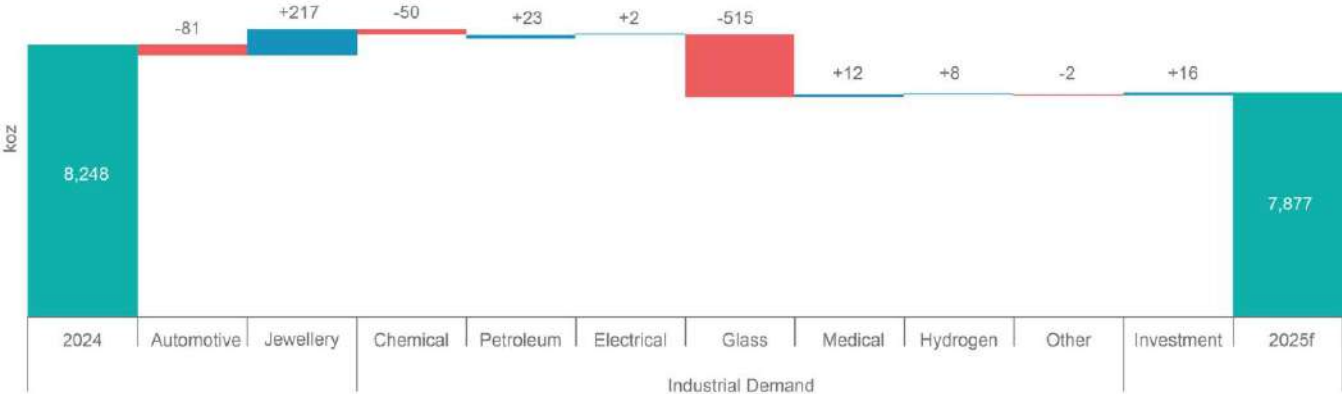
2025年の世界のプラチナ需要は前年比マイナス4%(-11.5トン)で245.3トンになる予測。関税と電動化に押されて自動車需要が減った分を宝飾品の需要増加ではカバーできず、ガラスと化学工場の拡張による工業需要の底上げもない。投資需要は前年比で2%増えて22.3トンになるだろう。

自動車需要

今年は関税が自動車需要に対する新たな逆風となって2024年の第4四半期以降の世界の自動車生産台数予測は112万台(-1.3%)も減っている。普通乗用車生産は9070万台で、2024年からの増産は1%にも満たない。浄化触媒装置を搭載する普通乗用車の生産は前年比で3%減って7640万台の予測、大型輸送車の生産予測は330万台で変わらないが、浄化触媒装置を搭載するバスやトラックの生産は3%減るだろう。全体で生産台数が伸びず浄化触媒装置を搭載する車の割合も減るため、プラチナ需要は3%減って(-2.5トン)94.3トンになるだろう。自動車生産台数の増加分はほとんどがバッテリー電気自動車(BEV)とハイブリッド車で、エンジン車の生産は減少傾向にある。

欧州では自動車のプラチナ需要は前年比で7%減って29.6トンになる予測。自動車メーカーの生産車両全体の炭素排出量の計算が3年間の平均値に変わったため、一部罰金が軽減されたが、BEVモデルの充実は進んでいる。BEV生産は29%増える予想だが、ディーゼル車のシェアは25%から22%に低下するだろう。

チャート7：2024年と2025年（予測）の分野別需要の変化



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

米国の新たな輸入関税の影響で欧州からの輸出は減り、中国製 BEV に対する欧州の輸入関税で輸入コストが押し上げられているため、欧州内で BEV の組み立て作業が加速している。ハイブリッド車は規制対応への橋渡しとして生産が 19% 増え、一部でガソリン車の減産（マイナス 24%）によるプラチナ需要の減少を補っている。大型輸送車の生産は、EU General Safety Regulation 施行前の前倒し購入で増えた 2024 年上半年期の反動を受けて、前年と変わらない予測。

北米の自動車のプラチナ需要は前年比で 9% 減り(-1.36 トン)、13.7 トンになるだろう。普通乗用車生産は販売高の低迷で 5% 減り、大型輸送車は貨物需要の低迷と、昨年発表された車両数の拡大を制限する環境保護庁の 2027 年基準の前倒し需要を受けて、生産が 27% 減る予測。2025 年の企業別平均燃費基準規制 (CAFE-3) を受けてハイブリッド車の生産が増えているが、関税問題と、2026 年以降は排ガス規制が緩和されると考えられているため BEV への投資は減っている。トラックや SUV などのエンジン車モデルはまだ重要な位置づけにはあるが、生産車両全体のバランスを取る必要から生産台数の足枷になっており、プラチナ需要に影響している。

日本の自動車のプラチナ需要は 3% 増える(+31.1 キロ) 予測。普通乗用車と大型輸送車ともに生産が増え、特にトラックは 6% の増産となるだろう。ハイブリッド車生産は堅調で、ガソリン車販売も安定している一方、BEV は補助策などが魅力的でないため普及があまり進んでいない。

中国では引き続き政府の廃車奨励策と新たな政策が自動車生産を支えている。普通乗用車販売は好調で、大型輸送車の需要も Stage 4 燃費基準に支えられて回復しており、3% 増えて(+0.52 トン)、17.1 トンになる予測。BEV とハイブリッド車の生産は新エネルギー車に対する補助金制度のもとで拡大しているが、電動化の加速で触媒装置の需要は減っており、自動車生産が増えているにも関わらずプラチナ需要は減少傾向にある。

その他の地域のプラチナ需要は 1% 増える予測。BEV の普及はインフラや送電網の制限などで伸びておらずエンジン車が依然主流だ。ハイブリッド車は 33% 増えるだろう。

2025 年のパラジウムの代替としてのプラチナの需要は 26.3 トンになり、一部、エンジン車の減産によるプラチナの需要減を補うだろう。

宝飾品需要

宝飾品の需要は昨年からの回復基調が続き、前年比で 11% 増えて 2018 年以降で最大の 69.2 トンとなる予測。

欧州ではプライダル分野と高級ブランドが大きく成長し、プラチナ需要は 7% 増えて過去最高となるだろう。増加の大部分はホワイトゴールドからシフトした需要で、消費者や業界がようやくプラチナとの価格差に反応し始めている。プラチナ宝飾品はゴールド宝飾品市場が縮小する中で販売数量ベースでも堅調に推移している。

北米の 2025 年の需要は 8% 増える予測で、コロナ禍直後に過去最高となった水準を上回ることになるだろう。欧州同様、ゴールドとの価格差が小売業者に大きな収益をもたらし、ダイヤモンド価格(特にラボグロウンダイヤモンド)の下落がプラチナに有利に働いており、ゴールド宝飾品のような販売数量の下落は避けられるだろう。

日本市場では好調に推移した上半期の販売が下半期も衰えず、プラチナ需要は 5% 増えるだろう。プラチナとゴールドの価格差、業界全体でホワイトゴールド、時にはイエローゴールドの宝飾品の代わりとしてプラチナを積極的にプロモーションしており、第 3 四半期、第 4 四半期もそれが続くだろう。

中国では、今年第 2 四半期が予想を上回ったことを反映し、2025 年全体のプラチナ宝飾品製造予測を前年比 42% 増加の 18.2 トンとした。今年下半期の需要をやや慎重な 5% の増加に抑えたのは、消費者センチメントの低迷やプラチナ商品に対して大手小売業者が積極的なプロモーションを行っていないため、伸び率が抑えられる可能性があると考えたためである。

インドではプラチナ宝飾品の製造は、関税による輸出低迷のため前年比で 10% 減って 7.5 トンになるだろう。昨年はインドで製造された宝飾品の 4 割ほどが輸出されていたが、今年の輸出量は前年比で 45% 減る予測だ。一方で、国内市場は、ゴールド価格の高騰で消費者がプラチナに向くと期待される。宝石がついた軽量の宝飾品の人気が高まっているのもプラチナ宝飾品に新たな消費者を惹きつける機会となるだろう。

工業需要

2025年の工業需要は前年比で22%減り、2017年以降最も少ない59.1トンになる予測。前回の予測をさらに6.5トン下回るのは、主にガラス産業の需要が日本の液晶ガラス生産工場の閉鎖によってネットベースで減ったのが主な原因。さらに中国のガラス生産工場の拡張が昨年のように行われないことも需要減につながった。化学産業の需要も8%減る予測で、他の分野は昨年と同じか微増にとどまる。工業需要はプラチナ需要全体の24%となり、2017年以降で最も少ないシェアとなるだろう。

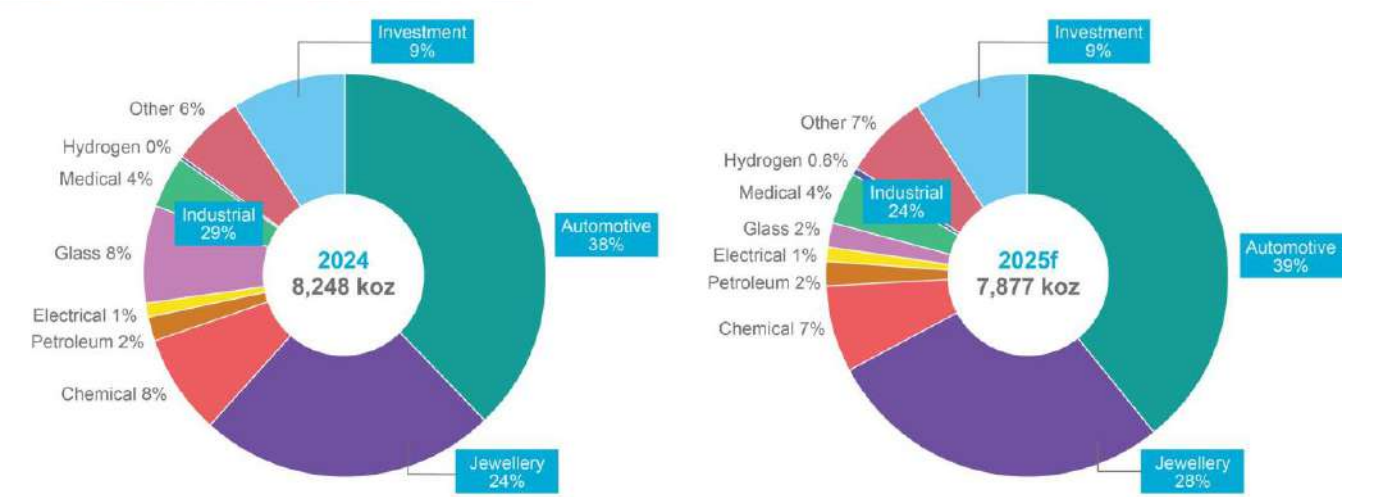
ガラス

2025年のガラス産業のプラチナ需要は前年比で74%減って(-16.0トン)、5.5トンになるだろう。これは我々のこれまでのデータの中でも最も少ない数字となる。中国の液晶ガラス産業は2019年から数年間続いた成長期を経て、今年は拡張計画がない年になる一方で、日本でも大規模液晶ガラス工場が閉鎖されたため、不要になったプラチナが市場に戻されネットベースで需要がマイナスになった。グラスファイバース生産では世界の3分の2を占める中国が需要を牽引しているが、その他の地域でも生産力が追いついており中国の勢いは弱まりつつある。中国と日本以外のガラス産業では昨年の韓国と台湾の液晶ガラス工場の閉鎖を経て、他の地域の需要がネットでポジティブに回復しつつある。

化学

2025年の化学産業のプラチナ需要は前年比マイナス8%で2年連続の減少となり、7年ぶりに少ない17.9トンになるだろう。これは主に世界のパラキシレン(PX)とプロパン脱水素(PDH)生産が今年残りも減産になるからだが、中国が近年爆発的に生産規模を拡大してきたことを考えると減少傾向は想定内といえよう。世界経済の減速で下流の産業の需要が減るなど、今年は石油化学産業の収益が下がっているためプロジェクトの延期や稼働率の低下などが見受けられる。石油化学分野のプラチナ需要の減少を補っているのがシリコン生産だが、経済の先行き不透明感がこの分野にも及ぶ可能性があり、伸びは限定的になるだろう。一方で、肥料生産は生産拡張予定があまりなく、プラチナ需要には変化がないだろう。

チャート 8 : 2024年と2025年（予測）の分野別需要



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

石油

2025年の石油産業のプラチナ需要は前年比14%増で3年ぶりに多い5.6トンに達するだろう。ガストゥーリキッド (GTL) 工場のプラチナ触媒交換による需要の高上げ、さらにバイオ燃料プロジェクトの増加もプラチナ需要を支えている。国際エネルギー機関の6月の報告書によると、2025年のバイオ燃料への投資は米国とブラジルを筆頭に前年比で13%増えて過去最高となる予測だ。対照的に今年の接触改質プロセスと異性化プロセスのプラチナ需要は少し減少するだろう。アフリカと中東では石油精製能力の増強が行われるが、ネットベースで見た世界的な精製能力は先進国の精製所閉鎖などがあったため増えていない。中国の石油産業は、運輸で急速に電動化が進んでいることでガソリン需要が既に今年のピークを過ぎ、また政府が効率化を進めていることから国内産業の再編が進み、プラチナ需要の低迷に繋がるだろう。

医療

2025年の医療のプラチナ需要は前年比4%増えて10.0トン (+0.37トン) になるだろう。この分野の需要が安定的に成長しているのは、高齢化や医療への投資、健康医療へのアクセスが増えたためにがん治療や医療機器の利用が増えているからだ。

電子材

ハードディスクドライブ(HDD) は SSD にマーケットシェアを奪われ続けているが、コスト的に効率がが高く、単位あたりのカーボンフットプリントが低いことからストレージ市場では今後も重要な位置を占めると考えられ、2025年を通じてHDDの出荷は安定しているだろう。今後の展望としては、企業向けおよび大容量ニアラインドライブの成長がドライブあたりの平均部品数の増加につながり、主要部品であるヘッドとメディアの需要、つまりプラチナの需要の増加となるだろう。一方で、堅調な半導体の需要はプラチナに対しても楽観的な見通しをもたらすだろうが、ここでも関税政策が重要なリスク要因であり、クラウドサービス企業は短期、中期の拡張計画の見直しを余儀なくされる可能性がある。

水素: 定置型燃料電池とその他

2025年の水素関連のプラチナ需要は前年比19%増えて(+0.24トン)、1.5トンに達する予測。予想よりも伸び率が鈍いが、固体高分子型水電解装置の設置数は増えており、規制面もこの動きを支えている。米上院は2025年7月に第45条に基づくクリーン水素生産の税額控除の適用期限を延長する予算調整法案を可決し、これによって企業は関連施設の建設着手がこれまでの期限だった2026年初めから、2年延びて2028年1月1日までにになった。

その他

エンジン車生産の減産によってスパークプラグの需要は減少するだろうが、マーケット全体の見通しは必ずしも悲観的とは言えない。ハイブリッド車の普及が新たな需要源であり、また海運や航空宇宙産業で先進技術を使うセンサーの需要が増えているからだ。しかし、一時的な在庫調整や関税政策によって車のアフターマーケット分野の低迷する兆しがある。2025年のこの分野のプラチナ需要は15.6トンで前年とほぼ横ばい。

投資需要

2025年の世界のプラチナインゴットとコインの投資需要は、中国市場の成長がその他の市場の売り越しを相殺し、前年比45%増えて(+2.7トン) 2年ぶりに多い8.8トンになる予測。

今年上半期の中国のインゴットとコインの需要は前年の4.8倍に増えたが、価格予測を控えめに見直したため下半期のペースは鈍化するだろう。結果、中国の今年全体のインゴットとコインの需要は前年比で2.9倍の5.7トンとなる予測。500グラム以上の投資用インゴットの需要は今年も好調だが、同じく今年後半の控えめな価格予測を反映して、前年比で15%伸びて5.8トンになるだろう。

北米の需要は前回の『プラチナ四半期レポート』から大幅な下方修正となる。その第一の理由は、前回の予測には関税の影響は織り込み済みではあったが、現時点までに解決するか、あるいは解決への道筋が明らかになると想定していたのだが、そのどちらも実現していないこと。第二に高騰したリースレートが未だ下がっておらず、それが小型インゴットとコインの製造に大きな影響を与えており、近い将来この状況が変わる兆しがないこと。したがって、たとえ関税問題が解消し個人投資家の関心が高まっても、プラチナ投資商品の製造が予測を変えるほど回復するとは考えられない。

欧州では、今後の経済の成長鈍化と先行き不透明感が貴金属の投資需要を支え、プラチナがついにこれまでのレンジに縛られた相場を抜けたことで価格上昇への期待が高まり、投資家の関心が再び高まるだろう。

日本でも中国と同様に、慎重な価格予測と昨今の価格上昇局面の影響で個人投資家の関心がプラチナに向き、今年後半の需要を押し上げるだろう。ただし、依然としてゴールドに注目が集まっているため全体的な量はそれほど大きくはなく、ネットベースで 0.62 トンの売り越しとなるだろう。

2025年のプラチナ ETF 保有高は、足元の価格上昇、堅調なファンダメンタルズ、そしてゴールドに対する割安感を背景に投資家センチメントが回復して 3.1 トン増えて 106.0 トンになる予測。

2025年の取引所在庫は、関税懸念を背景に流入と流出が入り混じって変動が大きい。今年第2四半期以降、再び関税懸念が高まり在庫が増えたが、強い現物需要を受けて高い在庫水準を維持するのは困難になっている。この変化は EFP にも現れている。先物は急速にスポット価格に近い水準、時にはそれを超え、年初の異常なプレミアム逆の現象が起こっている。取引所在庫は現在の水準から減るだろうが、米国内の現物需要が強まるために、年末までには全体としてはネットで 4.7 トン増えると予測している。

地上在庫

2025年の供給不足は26.4 トンで、地上在庫は92.6 トンとなり、世界のプラチナ需要の4.5 ヶ月分となる。2025年末の時点での地上在庫が以前の予測よりも多くなったのは過去の需要を訂正したことによる。WPIC が定義する地上在庫とは、年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社の加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量をいう。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表 2 : 供給、需要、地上在庫のまとめ — 年間比較

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025f	2024/2023 Growth %	2025f/2024 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)													
SUPPLY													
Refined Production	6,160	6,145	6,130	6,125	6,074	4,988	6,295	5,520	5,604	5,766	5,426	3%	-6%
South Africa	4,480	4,365	4,385	4,470	4,374	3,298	4,678	3,915	3,957	4,133	3,869	4%	-6%
Zimbabwe	405	490	480	465	458	448	485	480	507	512	491	1%	-4%
North America	365	390	360	345	356	337	273	263	275	254	189	-8%	-26%
Russia	710	715	720	665	716	704	652	663	674	677	686	0%	1%
Other	200	185	185	180	169	200	206	200	190	191	191	0%	0%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+30	+30	+30	+10	+2	-84	-93	+43	+11	-2	+0	N/A	N/A
Total Mining Supply	6,190	6,075	6,160	6,135	6,076	4,904	6,202	5,563	5,615	5,764	5,426	3%	-6%
Recycling	1,720	1,860	1,915	1,955	2,157	2,041	2,107	1,811	1,515	1,516	1,601	0%	6%
Autocatalyst	1,185	1,210	1,325	1,430	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,143	1,210	3%	6%
Jewellery	515	625	560	505	476	422	422	372	331	298	309	-10%	4%
Industrial	20	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	7%	7%
Total Supply	7,910	7,935	8,075	8,090	8,233	6,945	8,309	7,374	7,130	7,280	7,027	2%	-3%
DEMAND													
Automotive	3,245	3,360	3,300	3,115	2,688	2,196	2,466	2,778	3,206	3,114	3,033	-3%	-3%
Autocatalyst	3,105	3,225	3,160	2,970	2,688	2,196	2,466	2,778	3,206	3,114	3,033	-3%	-3%
Non-road	140	135	140	145	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	2,840	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,226	9%	11%
Industrial	1,875	2,020	1,900	2,040	2,208	2,003	2,403	2,166	2,389	2,423	1,901	1%	-22%
Chemical	515	560	570	565	802	639	660	672	839	825	575	-26%	-8%
Petroleum	170	220	120	235	219	109	169	193	159	158	181	0%	14%
Electrical	205	195	210	205	144	130	135	106	89	93	95	5%	2%
Glass	300	320	260	275	236	435	713	436	491	692	177	41%	-74%
Medical	240	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	6%	4%
Hydrogen Stationary and Other	†	†	†	†	29	28	17	13	22	41	49	87%	19%
Other	445	490	505	525	500	407	443	469	497	505	503	2%	0%
Investment	305	535	275	15	1,264	1,582	-3	-516	397	702	718	77%	2%
Change in Bars, Coins	525	460	215	260	278	593	349	259	322	194	282	-40%	45%
China Bars ≥ 500g	†	†	†	†	16	23	27	90	134	162	186	20%	15%
Change in ETF Holdings	-240	-10	105	-245	991	507	-241	-558	-74	296	100	N/A	-66%
Change in Stocks Held by Exchanges	20	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	150	244%	200%
Total Demand	8,265	8,430	7,935	7,415	8,267	7,611	6,818	6,308	7,841	8,248	7,877	5%	-4%
Balance	-355	-485	140	675	-33	-665	1,491	1,066	-712	-968	-850	N/A	N/A
Above Ground Stocks	2,225*	1,740	1,880	2,555	3,617**	2,951	4,442	5,508	4,796	3,828	2,978	-20%	-22%

出典：メタルズフォーカス（2019年から2025年予測）、SFA（オックスフォード）社（2015年から2018年）

注：

1. 地上在庫：* 128.8トン 2012年12月31日時点（SFA（オックスフォード）社）。** 113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス社）。
2. † 一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表3：需要と供給のまとめ—四半期ごとの比較

	Q2 2023	Q3 2023	Q4 2023	Q1 2024	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q2'25/Q2'24 Growth %	Q2'25/Q1'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)											
SUPPLY											
Refined Production	1,486	1,393	1,532	1,225	1,541	1,461	1,539	1,106	1,453	-6%	31%
South Africa	1,051	984	1,143	796	1,127	1,049	1,161	713	1,054	-6%	48%
Zimbabwe	126	132	133	132	126	132	121	114	137	9%	20%
North America	73	60	72	71	59	60	63	52	57	-4%	11%
Russia	190	168	136	178	181	172	146	180	155	-14%	-14%
Other	46	48	48	48	48	48	47	47	49	3%	4%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+8	-6	-23	+22	+35	-22	-37	-22	+0	-100%	N/A
Total Mining Supply	1,494	1,387	1,509	1,247	1,576	1,439	1,502	1,084	1,453	-8%	34%
Recycling	377	347	399	366	379	357	415	372	423	12%	14%
Autocatalyst	284	255	296	264	289	270	321	277	313	8%	13%
Jewellery	76	75	85	84	72	68	74	75	90	26%	20%
Industrial	17	17	18	17	19	20	20	19	20	8%	3%
Total Supply	1,871	1,734	1,907	1,613	1,955	1,796	1,917	1,456	1,876	-4%	29%
DEMAND											
Automotive	813	768	815	820	788	735	771	769	769	-2%	0%
Autocatalyst	813	768	815	820	788	735	771	769	769	-2%	0%
Non-road	†	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	474	446	471	488	506	493	521	533	668	32%	25%
Industrial	742	441	566	657	677	547	541	365	513	-24%	41%
Chemical	251	127	133	181	170	139	136	159	146	-14%	-9%
Petroleum	41	38	39	40	40	40	40	45	45	14%	0%
Electrical	23	22	22	22	23	24	24	22	24	3%	6%
Glass	227	56	160	210	230	131	122	-78	82	-64%	N/A
Medical	72	71	72	74	77	77	80	78	80	4%	3%
Hydrogen Stationary and Other	3	6	10	7	9	11	13	10	10	20%	0%
Other	126	121	130	124	129	125	127	127	126	-2%	-1%
Investment	195	50	-78	113	459	-230	360	461	-64	N/A	N/A
Change in Bars, Coins	47	86	61	60	14	65	54	70	109	>±300%	55%
China Bars ≥ 500g	20	35	48	53	41	30	38	35	47	15%	33%
Change in ETF Holdings	155	-99	-171	11	444	-300	142	-6	97	-78%	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	-27	28	-16	-11	-40	-25	126	361	-317	N/A	N/A
Total Demand	2,225	1,706	1,774	2,079	2,430	1,546	2,193	2,128	1,886	-22%	-11%
Balance	-354	28	133	-466	-475	250	-276	-672	-11	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス（2023年から2025年予測）

注：

1. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表 4 : 需要と供給のまとめ一半年ごとの比較

	H1 2023	H2 2023	H1 2024	H2 2024	H1 2025	H1'25/H1'24 Growth %	H1'25/H2'24 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)							
SUPPLY							
Refined Production	2,679	2,925	2,766	3,000	2,559	-8%	-15%
South Africa	1,829	2,127	1,923	2,210	1,767	-8%	-20%
Zimbabwe	242	265	258	254	251	-3%	-1%
North America	143	132	130	123	109	-16%	-12%
Russia	370	304	359	318	335	-7%	5%
Other	94	96	96	95	97	1%	2%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	41	-30	57	-59	-22	N/A	N/A
Total Mining Supply	2,720	2,895	2,823	2,941	2,537	-10%	-14%
Recycling	769	746	745	772	795	7%	3%
Autocatalyst	563	550	553	590	590	7%	0%
Jewellery	171	160	156	142	165	6%	17%
Industrial	35	36	36	40	39	10%	-1%
Total Supply	3,488	3,641	3,567	3,713	3,332	-7%	-10%
DEMAND							
Automotive	1,623	1,583	1,608	1,506	1,538	-4%	2%
Autocatalyst	1,623	1,583	1,608	1,506	1,538	-4%	2%
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	933	917	994	1,014	1,201	21%	18%
Industrial	1,382	1,007	1,335	1,088	878	-34%	-19%
Chemical	580	260	350	274	305	-13%	11%
Petroleum	82	77	79	79	91	14%	14%
Electrical	45	44	45	48	46	2%	-4%
Glass	275	216	440	252	4	-99%	-98%
Medical	149	144	151	157	158	5%	1%
Hydrogen Stationary and Other	6	15	16	25	21	29%	-16%
Other	245	251	252	253	253	0%	0%
Investment	424	-27	572	130	397	-31%	206%
Change in Bars, Coins	175	147	75	119	179	140%	50%
China Bars ≥ 500g	51	83	94	68	82	-13%	21%
Change in ETF Holdings	196	-270	455	-159	91	-80%	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	2	12	-51	101	45	N/A	-56%
Total Demand	4,362	3,480	4,509	3,739	4,014	-11%	7%
Balance	-873	162	-942	-26	-682	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス社（2023年から2025年予測）

注：

1. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表5：地域毎の需要 — 各年と四半期比較

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025f	2024/2023 Growth %	2025f/2024 Growth %	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025
Platinum Gross Demand (koz)																		
Automotive	3,250	3,350	3,290	3,115	2,688	2,196	2,466	2,778	3,206	3,114	3,033	-3%	-3%	788	735	771	769	769
North America	480	410	390	390	311	266	338	410	446	486								
Western Europe	1,450	1,630	1,545	1,340	1,355	978	918	970	1,157	1,022								
Japan	510	450	435	425	285	223	248	247	292	287								
China	145	195	230	220	160	255	371	447	554	532								
India	180	170	175	200	††	††	††	††	††	††								
Rest of the World	485	495	515	540	576	474	591	704	757	788								
Jewellery	2,840	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,226	9%	11%	506	493	521	533	668
North America	250	265	280	280	341	277	409	448	438	445								
Western Europe	235	240	250	255	237	196	260	301	319	343								
Japan	340	335	340	345	372	316	298	333	338	376								
China	1,765	1,450	1,340	1,095	871	832	703	484	408	412								
India	180	145	175	195	109	59	123	171	203	266								
Rest of the World	70	70	75	75	176	151	159	144	144	166								
Chemical	515	560	570	565	802	639	660	672	839	625	575	-26%	-8%	170	139	136	159	146
North America	55	50	50	50	98	103	109	110	121	97								
Western Europe	75	110	115	105	124	112	115	106	112	105								
Japan	10	15	15	15	66	62	65	66	61	58								
China	230	225	220	215	299	205	221	234	360	184								
Rest of the World	145	160	170	180	215	157	149	155	185	181								
Petroleum	170	220	120	235	219	109	169	193	159	158	181	0%	14%	40	40	40	45	45
North America	-25	90	55	55	30	5	32	44	44	56								
Western Europe	35	10	5	20	14	11	18	30	22	21								
Japan	5	0	-20	5	7	6	12	7	5	5								
China	45	80	45	10	66	35	39	26	24	17								
Rest of the World	110	40	35	145	103	52	67	86	64	60								
Electrical	205	195	210	205	144	130	135	106	89	93	95	5%	2%	23	24	24	22	24
North America	15	10	15	15	38	35	35	28	24	25								
Western Europe	10	10	10	10	27	23	25	20	16	17								
Japan	15	15	15	15	20	16	17	14	12	12								
China	70	80	90	85	28	31	31	23	19	20								
Rest of the World	95	80	80	80	31	25	26	22	18	19								
Glass	300	320	260	275	236	435	713	436	491	692	177	41%	-74%	230	131	122	-78	82
North America	0	10	5	5	-67	-25	4	15	33	18								
Western Europe	5	5	5	20	59	39	6	26	-90	6								
Japan	0	-10	-10	0	-37	-63	7	-150	5	-9								
China	195	225	165	120	173	333	731	453	541	751								
Rest of the World	100	90	95	130	108	150	-36	92	1	-73								
Medical	240	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	6%	4%	77	77	80	78	80
Other industrial	445	490	505	525	500	407	443	469	497	505	503	2%	0%	129	125	127	127	126
Hydrogen Stationary & Other	†	†	†	†	29	28	17	13	22	41	49	87%	19%	9	11	13	10	10
Bar & Coin Investment	525	460	215	280	278	593	349	259	322	194	282	-40%	45%	14	65	54	70	109
North America					155	234	256	258	169	115								
Western Europe					52	75	61	44	24	32								
Japan					46	240	-26	-114	54	-24								
China					15	23	26	38	52	64								
Rest of the World					9	21	33	33	23	7								
China Bars ≥ 500g					16	23	27	90	134	162	186	20%	15%	41	30	38	35	47
ETF Investment	-240	-10	105	-245	991	507	-241	-558	-74	296	100	N/A	-66%	444	-300	142	-6	97
North America					125	524	-6	-102	-61	165								
Western Europe					508	237	56	-313	-99	163								
Japan					-13	58	-23	-28	12	-6								
Rest of the World					370	-312	-268	-116	74	-26								
Change in Stocks Held by Exchanges	20	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	150	244%	200%	-40	-25	126	361	-317
Investment	305	535	275	15	1,264	1,582	-3	-516	397	702	718	77%	2%	459	-230	360	461	-64
Total Demand	8,270	8,410	7,925	7,415	8,267	7,611	6,818	6,308	7,841	8,248	7,877	5%	-4%	2,430	1,546	2,193	2,128	1,886

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2025年予測）、SFA（オックスフォード）社（2015年から2018年）

注：

1. † 水素と定置型燃料電池の需要は2019年以前はその他の工業需要に含まれる。
2. †† インドの自動車需要はその他の地域に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表6：地域毎のリサイクル供給 — 各年と四半期比較

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025f	2024/2023 Growth %	2025f/2024 Growth %	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025
Platinum recycling supply (koz)																		
Automotive	1,185	1,210	1,325	1,420	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,143	1,210	3%	6%	289	270	321	277	313
North America					522	486	490	458	311	327								
Western Europe					792	823	842	687	580	585								
Japan					137	92	114	81	73	64								
China					35	68	77	59	53	72								
Rest of the World					126	83	95	86	96	95								
Jewellery	515	625	560	505	476	422	422	372	331	298	309	-10%	4%	72	68	74	75	90
North America					3	3	3	3	3	3								
Western Europe					4	4	3	4	4	4								
Japan					187	162	160	165	136	107								
China					276	248	250	195	183	179								
Rest of the World					5	5	5	6	5	5								
Industrial	20	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	7%	7%	19	20	20	19	20
North America					15	12	12	13	12	15								
Western Europe					11	10	11	11	13	15								
Japan					34	34	34	34	34	34								
China					7	7	8	9	9	10								
Rest of the World					2	2	2	2	2	2								

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2025年予測）、SFA（オックスフォード）社（2015年から2018年）

PLATINUM QUARTERLY Q2 2025

表 7 : 供給、需要、地上在庫のまとめ ― 年間比較 (6 ページ表 1 をトン表示に換算したもの)

	2021	2022	2023	2024	2025f	2024/2023 Growth %	2025f/2024 Growth %	Q1 2025	Q2 2025
Platinum Supply-demand Balance (tonnes)									
SUPPLY									
Refined Production	196	172	174	179	169	3%	-6%	34	45
South Africa	146	122	123	129	120	4%	-6%	22	33
Zimbabwe	15	15	16	16	15	1%	-4%	4	4
North America	8	8	9	8	6	-8%	-26%	2	2
Russia	20	21	21	21	21	0%	1%	6	5
Other	6	6	6	6	6	0%	0%	1	2
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	-3	+1	+0	-0	+0	N/A	N/A	-1	+0
Total Mining Supply	193	173	175	179	169	3%	-6%	34	45
Recycling	66	56	47	47	50	0%	6%	12	13
Autocatalyst	50	43	35	36	38	3%	6%	9	10
Jewellery	13	12	10	9	10	-10%	4%	2	3
Industrial	2	2	2	2	3	7%	7%	1	1
Total Supply	258	229	222	226	219	2%	-3%	45	58
DEMAND									
Automotive	77	86	100	97	94	-3%	-3%	24	24
Autocatalyst	77	86	100	97	94	-3%	-3%	24	24
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	61	58	58	62	69	9%	11%	17	21
Industrial	75	67	74	75	59	1%	-22%	11	16
Chemical	21	21	26	19	18	-26%	-8%	5	5
Petroleum	5	6	5	5	6	0%	14%	1	1
Electrical	4	3	3	3	3	5%	2%	1	1
Glass	22	14	15	22	6	41%	-74%	-2	3
Medical	8	9	9	10	10	6%	4%	2	2
Hydrogen Stationary and Other	1	0	1	1	2	87%	19%	0	0
Other	14	15	15	16	16	2%	0%	4	4
Investment	(0)	(16)	12	22	22	77%	2%	14	(2)
Change in Bars, Coins	11	8	10	6	9	-40%	45%	2	3
China Bars ≥ 500g	1	3	4	5	6	20%	15%	1	1
Change in ETF Holdings	(7)	(17)	(2)	9	3	N/A	-66%	(0)	3
Change in Stocks Held by Exchanges	(4)	(10)	0	2	5	244%	200%	11	(10)
Total Demand	212	196	244	257	245	5%	-4%	66	59
Balance	46	33	(22)	-30	(26)	N/A	N/A	-21	0
Above Ground Stocks	138	171	149	119	93	-20%	-22%		

出典: メタルズフォーカス (2021年から2025年予測)

注:

1. 地上在庫: ***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイトを参照 (無料)。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、23ページの表3と24ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 23ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

用語集

Above ground stocks 地上在庫

年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社のしかかり・加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量。通常は供給で賄えない需要を容易に補充できる、あるいは過剰な供給分を即座に流通させられる、保管庫にある未公表のメタルをいう。

ADH アルカン脱水素化

飽和炭化水素であるアルカンから触媒などによって不飽和炭化水素であるアルケンを生成する化学反応で、ブタン脱水素(BDH)とプロパン脱水素(PDH)がある。

BDH ブタン脱水素

触媒を使ってイソブタンからイソブチレンを生成する化学反応。

BEV バッテリー電気自動車

充電できるバッテリーを利用する電気モーターを推進力として利用する電気自動車。

Bharat バラート (排出基準)

インド政府が、エンジン車及び点火式エンジンから排出される大気汚染物質を軽減・規制するために導入した排ガス基準 (BSES)。

Bharat Stage VI standard (BS-V, BS-VI) バラートステージ V, VII 基準

バラートステージ VI 基準は「Euro 6」に準じ、2018年から2020年にかけて導入された。

Catalysed vehicle 触媒装置付き自動車

触媒装置付き自動車とは排気システムに触媒コンバーターを備えた自動車で、一酸化炭素(CO)、窒素酸化物(NO_x)、炭化水素(HC)などの有害物質を、触媒装置の中で二酸化炭素(CO₂)、窒素(N₂)、水蒸気(H₂O)など、より害の少ないカスに転換して排出する。化石燃料を燃焼する純粋なエンジン車及びハイブリッド車の両方が触媒装置を搭載する。

China Bars ≥ 500g 中国の500グラム以上のインゴット

中国で売られる500グラム以上の大型のインゴットのネットベースの需要で、実需ユーザーが購入したインゴットは含まない。

China Vehicle Emission Standards 中国の排ガス基準

中国の排ガス基準は国レベルでは生態環境部が、地方レベルでは環境保護局の管轄となる。中国の多くの都市や省では新しい基準を先行して導入することが多い。

China 6 「国 6」 (排出基準)

2016年12月に中国政府が全国の普通乗用車に対して定めた、それぞれ2020年7月(「国 6a」)と2023年7月(「国 6b」)から適応される排出基準。排気管から排出される排気ガスと燃料蒸発ガスの基準については「Euro 6」と米「Tier 2」基準に準じている。「国 6b」基準では、EU RDE 規制(「Euro 6d TEMP」)を基本に、改良と修正を加えた路上走行試験を義務化した。

China VI 「国 VI」 (排出基準)

2023年7月よりディーゼルで走る大型輸送車に適用される排出基準。

Compounds (Platinum based) プラチナベースのコンパウンド

プラチナと他の物質を合わせ、特定の化学反応を促進するため、触媒、メッキ、金属3Dプリンティング、その他の製造過程に使われる。

Diesel oxidation catalyst (DOC) ディーゼル酸化触媒

ディーゼル燃料の不完全燃焼による有害な一酸化炭素や炭化水素を、無害な二酸化炭素と水に変換する触媒。

Diesel particulate filter (DPF) and catalysed diesel particulate filter (CDPF) ディーゼル微粒子フィルター、触媒被覆DPF

DPF はディーゼル排気ガス中のススを物理的に捕える装置で、CDPF はススの酸化と除去を促進するために PGM 触媒をコーティングした装置。これらはしばしば同義語として用いられる。

Electrolysis of water 水の電解

水の電解装置は、電流を利用して水の分子を水素と酸素に分解する装置。電解を行う最小単位のデバイスであるセル、それを複数重ねたスタック、これらと周辺の機器を合わせたシステムからなる。

Emissions Legislation 排気ガス規制

一酸化炭素(CO)、粒子状物質(PM)、炭化水素、窒素酸化物(NO_x)など、車が排出する有害ガス処理を行う浄化触媒システムの搭載を義務化した規制で、地域や国ごとに異なる基準があり、最小排出目標値や適応期限が異なる。

EPA 環境保護庁

Environmental 米連邦政府の機関として米国の自動車排出ガス規制を管轄する。

EREV レンジエクステンダー式電気自動車

ガソリンエンジンを搭載するバッテリー電気自動車だが、エンジンはプラグインハイブリッド車のように車輪の駆動動力ではなく、航続距離を伸ばすためにバッテリーの充電用発電機として機能する。

ETF 上場投資信託

指数やコモディティー、資産バスケットに連動するように運用される投資信託の一種。プラチナ ETF は現物プラチナ 上昇している取引所が承認した保管庫にある (LPPM グッドデリバリーバー) が原資となっている。

Euro 6 emission standards Euro 6 排ガス規制

2014年から2015年にかけてEU圏で導入された普通乗用車が対象の排ガス規制。基準値は変わらないものの、現在は測定法がより厳格になった Euro 6 a、b、c、d、Euro 6d-Temp が使われている。CO₂ については試験室ベースの WLTP が、NO_x についてはRDEが導入されている。

Euro VI emission standards Euro VI 排ガス規制

2013年から2014年にかけてEU圏で導入された大型輸送車が対象の排ガス規制。のちに同様の基準値が他国に採用された。

Euro 7 emission standards Euro 7 排ガス規制

Euro 7 排ガス規制は、普通乗用車と小型商用車の排気ガスについては現行の Euro 6 基準値のままだが、粒子状物質の基準についてはより厳格化され、さらに走行距離と耐用年数においても強化される。2027年初頭から段階的に導入される予定。

Euro VII emission standards Euro VII 排ガス規制

Euro VII 排ガス規制は大型輸送車に対して、これまで規制されてこなかった亜酸化窒素(N₂O)を含む各種の有害物質についてより厳格な基準値を定めるとともに、耐用年数についても強化する。2027年初頭から段階的に導入される見込み。

FCM 燃料消費モニタリング

車両の使用期間中の実際の燃料消費を記録することで、「Euro 6d」排ガス規制では2020年1月1日以降に生産される全ての車、および2021年1月1日の全ての新規登録車に課される。

FCEV 燃料電池自動車

バッテリーの代わりに、水素を燃料とするプラチナを含む燃料電池で発電することで走行する電気自動車。

Forward price 渡価格

将来のある時点のコモディティーの価格で、通常はスポット価格にリスクフリーの金利及び保有コストを含める。

GTL ガス・ツー・リキッド

天然ガスからガソリンやディーゼル燃料などの液体燃料を合成する技術。

HDD ハードディスクドラ

磁気ディスクを使ってデジタルデータを記憶させる装置。

HDV 重量車

米国の排ガス規制における車両区分。日本では大型トラックやバスに相当。

HEV ハイブリッド電気

ハイブリッド車に搭載されているエンジンは車輪を駆動するだけでなく、発電してバッテリーの充電に使うことも、回生ブレーキによってバッテリーに電力を蓄えることもできる。電気のための航続距離は通常数キロメートルにとどまる。

Hydrogen Production Methods 水素の生産方法

近年は異なる方法で生産された水素を色分けして区別するようになった。しかし、まだ国際的に承認された基準はなく、あくまでも参考呼称。以下の色分けはさまざまな生産方法を含めた一般的なもの。

ホワイト水素 – 天然水素あるいは産業製造過程の副産物として生じる水素

ブラック・ブラウン水素 – 石炭(ブラック)、褐炭(ブラウン)を原料にする水素

グレー水素 – 化石燃料の改質による水素

ターコイズ水素 – メタンの熱分解による水素

ブルー水素 – 化石燃料の改質と二酸化炭素回収を組み合わせて生産される水素

グリーン水素 – 再生可能エネルギーを使う水電解による水素

ピンク水素 – 原子力発電を使って生産される水素

ICE 内燃機関

燃料を燃焼させることで機械の動力源とする熱機関

IoT モノのインターネット

あらゆるモノがインターネットを通じて相互に通信する仕組み。

ISC サービス稼働適合性

自動車の排ガス基準に対する適合を実際の走行条件下でも確認する評価。

Jewellery alloys 宝飾品の合金

プラチナ宝飾品の純度は常に千分率で表される。例えば最も一般的な pt950 とは、金属の 95% が純プラチナで、残りはコバルトや銅など他の金属が使われていることを意味する。プラチナ宝飾品としての認定や刻印をするための純度の基準は通常各市場で決められている。

Jewellery demand 宝飾品の需要

未加工のプラチナが半製品あるいは完成品の宝飾品に初めて転換された段階の需要。

Koz トロイオンス

1 kozは1000トロイオンス、1 トロイオンスは約31.1キログラム。

LCD 液晶ディスプレイ

2 枚のガラスあるいはプラスチック層の間に液晶を挟み込み、電界によって光の透過を制御する平面のパネルディスプレイ。

LDV 軽量車両

米国の排ガス規制における車両区分。日本では普通乗用車と小型商用車にほぼ相当する。

NEDC New European Driving Cycle

国連欧州経済委員会(UNECE)が管理する国連車両規則101号に定められ、欧州で乗用車の排出ガス量や燃料評価に用いるテストサイクルで、随時更新され、より厳格なWLTPに置き換えられた。

Net demand ネットの需要

リサイクルで回収される供給を差し引きしたネットの新たな需要。

Non-road engines 非道路移動機械用エンジン

建設現場や農場、鉱山の採掘現場の車両に使われるディーゼルエンジンでエンジンの構造や排ガス制御技術は、一般道を走行するディーゼル大型輸送車と似ている。

Ounce conversion オンスとトン・キロ

1 トンは1000キログラム、32.151 トロイオンス。

Oz トロイオンス

貴金属に通常使われる重量の単位で 1 トロイオンスは 31.103 グラム。

PDH プロパン脱水素

プロパンからプロピレンを製造するプロセス。

PEM Electrolyser Technology 固体高分子型水電解技術

水電解技術の主な 4 つの技術の一つで、酸素極 (アノード) の電極には酸化イリジウム、水素極 (カソード) の電極にはプラチナが使われる。輸送層にはプラチナがコーティングされた焼結多孔質チタン、双極板にもプラチナが使われる。

PGMs 白金族金

ルテニウム(Ru)、ロジウム(Rh)、パラジウム(Pd)、オスミウム(Os)、イリジウム(Ir)、プラチナ(Pt)の 6 つの元素の総称。[訳者加筆]

PHEV プラグインハイブリッド電気自動車

外部電源に接続して充電できるバッテリーと、車輪を直接駆動あるいはバッテリーも充電できるエンジンを搭載する。電気だけの航続距離は通常30キロから80キロ。

PMR 貴金属精錬所

鉱石やスクラップから貴金属を取り出して純度を高める施設[訳者加筆]。

Pricing benchmarks 指標価格

流動性の高い市場で取引されるコモディティの価格で、買い手と売り手の参考基準となる。プラチナの場合は、通常、ロンドン金属取引所(LME)が公表する、オークション方式による LBMA プラチナ価格。

Producer inventory 生産者在庫

需給バランスにおいて、生産者在庫の変化は精錬メタル生産と販売したメタルの差となる。

PX パラキシレン

原油から得られる石油ナフサを、プラチナ触媒を使って転化させて得られる化学物質。パラキシレンはポリエステル製造に利用するテレフタル酸の生産に用いられる。

Refined production 精錬生産

精錬所では、最低でも純度 99.95% のプラチナのインゴット、スポンジ、粒子を生産する。

RDE 実走行排出試験

走行中の車両が排出する NO_x などの有害物質を測定し、試験室での検査に加えて実施される試験。2017年9月から新型車に対して導入され、2019年9月からは全ての登録車に対しても課されている。

Secondary supply リサイクル供給

未使用の在庫も含むプラチナを使った製品を回収して取り出されたプラチナは供給の一部として扱われるが、製造過程で発生する生産スクラップは含まない。自動車触媒及び宝飾品のリサイクルはスクラップが出た国での統計となり、実際にプラチナの精錬が行われる国とは異なる場合がある。

Selective catalytic reduction (SCR) 選択式還元触媒

ディーゼルエンジンの排気流に液体還元剤(尿素)を噴射する排気ガス制御技術で、使用する尿素は AdBlue という商品名で知られる。通常 SCR ユニットと、プラチナを含むディーゼル酸化触媒(DOC)を汎用する。

SGE 上海黄金交易所

2002年設立の中国唯一の公式貴金属取引所。[訳者加筆]

SSD ソリッドステートドライブ

メモリチップを用いるデータ記憶装置でフラッシュメモリを利用する。

Stage 4 regulations ステージ4規制

非道路移動機械(Non-road mobile machinery: NRMM) はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。[米国のEPAが定める排ガス規制(訳者加筆)]

Three-way catalyst 三元触媒

ガソリン車において炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物を除去するために用いられる。パラジウムが主体の触媒だが、代替として一部プラチナが使われるようになっており、またロジウムも使われる。

Tri-metallic catalyst トリメタル触媒

自動車の排ガス制御において、3種類の白金族金属であるプラチナ(Pt)、パラジウム(Pd)、ロジウム(Rh)を組み合わせた浄化触媒装置。

US Vehicle Emission Standards 米国の排ガス基準

米国の自動車およびエンジンに対する排ガス規制は「Clean Air Act (CAA)」に基づき、環境保護庁(EPA)の管轄下にある。カリフォルニア州は独自の排ガス規制を導入する権利を有し、同州のEPA下にあるカリフォルニア州大気資源局(CARB)がエンジン及び車両の排ガス規制を策定する。車両は毎年「bin」と呼ばれる異なる排出クラスに認証され、フリート全体の平均排出量が規制の対象となる。

Tier 3 Tier3規制

米EPAによる排ガス規制で2025年までの共通目標を定めた。2017年～2025年式車を対象とし、カリフォルニア州基準と合致[訳者加筆]。

Tier 4 stage Tier4ステージ規制

EUにおける非道路移動機械の排ガス規制はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。

Washcoat ウォッシュコート層

自動車触媒装置のブロックあるいは部材内部に、セラミックなどの不活性基材の上にコーティングされる層でプラチナなどの活性触媒を含む。

WIP しかかり在庫あるいは加工在庫

生産者において製錬及び精錬過程にある段階の未完成の製品在庫 [訳者加筆]

WLTP 乗用車などの国際調和燃費・排出ガス試験方法

有害物質の排出量及び燃料消費量を測定するための試験室検査で、EUでは2017年9月より新型車に、2018年9月よりNEDCに代わる方法として導入された。日本では2016年10月より導入 [訳者加筆]

WPIC ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

免責条項：当出版物は一般的なもので、唯一の目的は知識を提供することである。当出版物の発行者、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルは、世界の主要なプラチナ生産会社によってプラチナ投資需要発展のために設立されたものであるその使命は、それによって行動を起こすことができるような見識と投資家向けの商品開発を通じて現物プラチナに対する投資需要を喚起すること、プラチナ投資家の判断材料となりうる信頼性の高い情報を提供すること、そして金融機関と市場参加者らと協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを提供することである。

当出版物に掲載された2019年からメタルズフォーカス社によるリサーチは© Metals Focus Copyrightが著作権を有するものである。当出版物に掲載されたデータの全ての著作権およびその他の知的財産権はメタルズフォーカス社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。メタルズフォーカス社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのメタルズフォーカス社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もメタルズフォーカス社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物に掲載された2019年以前のSFA社によるリサーチは© SFA Copyrightが著作権を有するものである。

当出版物は有価証券の売買を提案または勧誘するものではなく、またそのような提案または勧誘とみなされるべきものでもない。当出版物によって、出版者およびコンテンツ提供者は、それが明示されているか示唆されているかにかかわらず、有価証券あるいは商品取引の注文を発注、手配、助言、仲介、奨励する意図はない。当出版物は税務、法務、投資に関する助言を提案する意図はなく、当出版物のいかなる部分も投資商品及び有価証券の購入及び売却、投資戦略あるいは取引を推薦するものとみなされるべきでない。発行者、コンテンツ提供者はブローカー・ディーラーでも、また2000年金融サービス市場法、Senior Managers and Certifications Regime及び金融行動監視機構を含むアメリカ合衆国及びイギリス連邦の法律に登録された投資アドバイザーでもなく、及びそのようなものと称していることもない。

当出版物は特定の投資家を対象とした、あるいは特定の投資家のための専有的な投資アドバイスではなく、またそのようなものとみなされるべきではない。どのような投資も専門の投資アドバイザーに助言を求めた上でなされるべきである。いかなる投資、投資戦略、あるいは関連した取引もそれが適切であるかどうかの判断は個人の投資目的、経済的環境、及びリスク許容度に基づいて個々人の責任でなされるべきである。具体的なビジネス、法務、税務上の状況に関してはビジネス、法務、税務及び会計アドバイザーに助言を求めるべきである。

当出版物は信頼できる情報に基づいているが、出版者とコンテンツ提供者が、情報の正確性及び完全性を保証するものではない。当出版物は業界の継続的な成長予測に関する供述を含む、将来の予測に言及している。出版者とメタルズフォーカス社は当出版物に含まれる、過去の情報以外の全ての予測は、実際の結果に影響を与えるリスクと不確定要素を伴うことを認識しているが、出版者とコンテンツ提供者は、当出版物の情報に起因して生じるいかなる損失あるいは損害に関して、一切の責任を負わないものとする。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのロゴ、商標、及びトレードマークは全てワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルに帰属する。当出版物に掲載されているその他の商標はそれぞれの商標登録者に帰属する。発行者は明記されていない限り商標登録者とは一切提携、連結、関連しておらず、また明記されていない限り商標登録者から支援や承認を受けていることはなく、また商標登録者によって設立されたものではない。発行者によって非当事者商標に対するいかなる権利の請求も行われたい。

© 2025 World Platinum Investment Council Limited. 禁無断転載。ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの名称、ロゴ、及び略称WPICはワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの登録商標である。当出版物のいかなる部分もワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルおよび著者の許可なくして、いかなる方法によっても複製および配布されてはならない。